



学友会 会報

第20号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

URL▶ <http://www.f4.dion.ne.jp/~gakuyu/> E-mail▶ gakuyu@f4.dion.ne.jp 学友会直通 070-5646-9113



会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学学友会会長 丹地章夫



本年も会報発刊の時期となりました。

益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。平成十二年度の事業計画も、順調に実施されておりますことをここに御報告申し上げます。

また、本年度はフェラーリとの共同製作による、ソーラーカーでのシルクロード走破というイベントも目前に迫っております。

この機会が今後の両校の発展に大いなる足跡を残すこととなりますよう、また今後の母校発展の原動力ともなりますよう、大きな期待をもって共に見守りたいと思います。

これまで永年に渡り、母校の発展に御尽力頂きました有馬学長が、四月一日付けをもって退任され、同じく四月一日付けで、我々の同朋である脇俊隆教授が新学長に就任なさいました。脇学長は、私と同じ中日本自動車短大の一期生であり、これまで学友会の財務として、長年会のためにお力添えを頂いてまいりました。学友会としまして、大変大きな誇りであり喜びであります。

そして、我々の学友会もまた、これに負けずと活発な活動がなされますことを、新しい支部作りと、支部の充実に向け頑張りました。

これより先は、中日本自動車短大と学友会が、より一層密接なつながりを持ち、互いのより良い発展のために車の両輪となって、前進して行きたいと望んでいます。

さて、これまでも度々お願い致してありますように、諸事情に伴い入学志願者数も伸び悩んでいるのが現状であります。同窓生推薦入学制度もあり、条件的にもかなり優遇されると聞きます。一人でも多くの活用をお願い致します。

皆様のお力添えにより、新学長がよりすばらしい学長に育っていくことができることを、学友会会長として切に希望し、皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

また、卒業生の就職に関しまして皆様の御力添えを賜りますようお願いしてお申し上げます。詳細については、母校あるいは学友会事務局までお問い合わせ下さい。最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大な御協力、御援助を賜りました大学関係者並びにOB諸兄に対しまして心より厚く御礼申し上げます。





ご挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 脇 俊 隆

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様は、現実の厳しい社会の中で日々研鑽されていることと推察致します。また、こうした中で、会員同士の交流が行われ同窓生の絆が培われて活動の支えになつているものと確信しております。

本学は、一九六七年に神野浅義氏によって創設され、爾来理事長は五代目の神野哲州氏へと代わり、また学長も佐藤観次郎氏を初めに九代目の私へと引き継がれています。その間多くの理事長、学長によって創始者の意志と社会的要請を受けていくつかの基盤整備が行われ今日の短期大学が確立されてきました。そして多くの卒業生(約一万九千人)を社会や自動車産業界に輩出し大きく各方面に貢献しております。

ありません。

母校中日本自動車短期大学が、この激動の時代の中で新たな大学創りにむけて積極的な教育改革の整備を推進するために今年は大きなカリキュラム変更をいたしました。また、本学の教育水準を社会に知らせるために本学・中国・イタリアの共同作業によるシルクロード走破計画を進めております。

これは、本学の学生が教育スタッフの指導のもとに中国シルクロードをソーラーカーで走破する大きな教育実習です。ここには、中国の留学生および中国自動車工業総公司の現地での支援と国際交流があり、また、車のデザインについては、イタリア国立フェラーリ工業専門学校でのデザイン支援があります。このように多くの人々に支えられて今、大きなイベントが進んでおります。

卒業生の皆様、どうか本学の取り組みをご理解頂き、更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健康と実社会における一層の活躍を祈念申し上げます。



入学生数六〇四名

中日本自動車短期大学

事務局長 岡 田 俊 治

学友会の皆さん、日頃は母校に

対して多大なご支援をいただき、有難く厚くお礼申し上げます。さて今年度からは、本学の第一期生であります脇俊隆氏が本学の学長に就任されました。このことは、学友会にとりまして大変名譽なことと存じます。今後に向けて、脇学長から明確な方針が打ち出され、教職員一同新たな気持ちで一丸となつて教育に、そして運営に取り組んでいます。

ところで、毎年この紙面をお借りして、入学生募集のお願いをさせて頂いてまいりましたが、今年四月の入学式には、六〇四名の新入生を迎え入れることができました。入学定員六〇〇名を超える入学生を受け入れることができたのは、五年振りのことになりました。特に、学友会の皆様からご推薦いただいた入学生は、三五名に達しております。この数は年々増加しており、同窓生推薦入学試験は本学の入学試験の中でも大きなウェイトを占めるようになってきました。これもひとえに皆様方のご助力の賜物と心より感謝いたしております。

次年度につきましても、より一層のご協力を賜りますよう、よろ

同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。

また、中日本自動車短期大学卒業生のご子息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額(10万円)が免除になります。

皆様のご子息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用下さい。くわしくは、連絡綴りをご覧ください。

OB近況



専攻科 第七期生
佐々木 佳久さん

学友会の皆様、私は第七期自動車工学専攻科を卒業しました。しかし、現在就職はせず、フェラーリ工業専門学校とソーラーカーを共同製作し、シルクロードを走破する計画にぜひ参加したいと思いい学校に残っています。

昨年の夏ぐらまでは就職することを考えていたのですが、ソーラーカーの大会を通じてフェラーリ工業専門学校のフィリップ氏をはじめ多くの人々と会話できたことや、イタリアの研修旅行に参加したことによってだんだんと考えが変わってまいりました。そして私は、「シルクロードをソーラーカーで走破するチャンスはこれを逃したらないし、このことで得たことが今後プラスになる」と思い参加することを決意しました。

現在マシンをデザインし、製作しています。この中でさらに多くの技術を学び、この一年が無駄とならないよう一生懸命努力いたします。最後になりましたが、学友会の皆様方のご活躍とご発展を祈念いたします。

在 学 生 よ り



専攻科
福井 俊洋さん

専攻科に入学して早一年が経ち、卒業研究のテーマも無事に決まり、充実した学生生活を送っています。

卒業研究のテーマは、「CO/CONボジット、Si-COの動摩擦係数の測定」です。COは現在、F1のブレーキなどの特殊な分野で使われています。もちろん最初は、このというものを見たこともなく、何も分からない状態で先輩の後をついて、いろいろ教えてもらい、たくさん先生の協力のおかげで、今では試験機を使用してデータが採れるようになり、ようやく自分たちの力で研究ができるようになりました。当面の目標は、基礎的なデータを採り、試験片および試験機を提供してくれたNGKへの中間報告をすること、一般車のブレーキパッドとの比較をします。自分たちの研究が自動車技術の最前線で働く人たちの目にもどるのようになるか、とても不安ですが、期待の方もないわけではないので、できるだけのことはいきたいと思っています。



二年生
岩村 誠さん

この中日本自動車短期大学に入学してあつという間に一年がたちました。最初はあまりしゃべらなくて友達は少なかつたけど今はたくさん友達ができ、有意義な学校生活を送っています。

入学してからは、見るもの、聞くものすべてが新鮮で勉強もついでいくのがやつとで、二年間がんばつていけるか、とても心配でした。

一週間のうちに実習、座学などがありました。みんなそつだと思いましたがやはり実習のときはとても楽しく授業ができました。エンジンの分解・組付けなども楽しかったですが、特にミッションの分解・組付けは、かなり興味を持って、勉強することができたこともにとても感動しました。二年生になり、一年時にはなかつた、コース別の実習も増え、ますます授業が楽しくなってきました。まだ残りの短大生活はたくさんありますが、楽しい時間はあつという間に過ぎてしまつので、残りの一日一日を大事にし、二級整備士の資格取得に励みつつ楽しく過ごしていきたいと思います。



一年生
大松 洋司さん

中日本自動車短期大学に入学してから約一ヶ月がたちました。入学する前は下宿なのできちんと自分一人が家事ができるかなど心配なことばかりでした。

いざ入学して独り暮らしをする、想像していたとあり大変でした。授業の方は高校のときは普通科なので、もつほとんどの授業が初めてやることばかりです。

この中日本自動車短期大学に入学して一番楽しみにしていたのは、「実習」です。初めての实習は鉄を鋸やドリルを使ってものを作ることをやりました。あんなに固くて厚い鉄が鋸で切れてしまつなんて本当におどろきました。しかし、鉄を切るのにはすぐ力が必要でなかなか切れませんでした。それに、がんばつて切り終えて見るとさちんと真つ直ぐ切れていないで、曲がつてしまつたりしてしまいました。

自分の力で鉄を切つて製図で記されたとおりにものを作らなければいけないという大変さを身にかけて実感しました。

次をやつたのが「溶接」です。始めに「ガス溶接」という溶接をしてみました。

ガス溶接という溶接は酸素とアセチレンガスを混合させてその混

認定試験の合格率

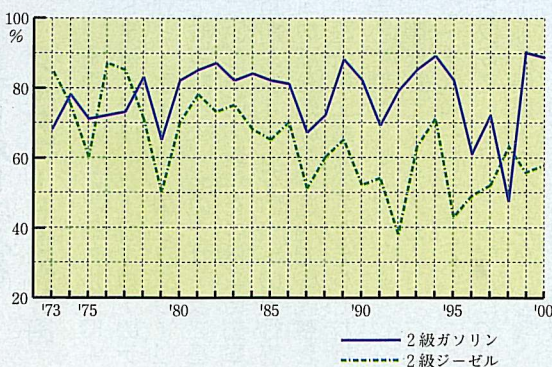
技術研修課

毎年行われる二級整備士認定試験の結果を報告します。今年(第三十三期)の学生が三月二十五日に受験しました。合格率は二級ガソリンでは88・3%、二級ジーゼルでは57・4%となりました。二級ガソリンにおいては惜しくも90%には届きませんでした。本学においては二年続けてのハイレベルな記録となりました。しかしながら二級ジーゼルの合格率が昨年を若干上回っている程度なので、尚一層の努力が必要と感しております。来年度は最低でも90%の合格率が得られるよう全力で取り組んでいきたいと思います。

これから二年間、中日本自動車短期大学で自動車の勉強をして、この学校に来た目的である「二級自動車整備士」の資格をぜひ取りたいです。

校友会では、会員の皆様と交流を図るため、ホームページを開設しています。アクセスをお待ちしています。また、メールアドレスも取得していますので、ご利用ください。

URL ▶ <http://www.f4.dion.ne.jp/~gakyu/>
E-mail ▶ gakyu@f4.dion.ne.jp





1999年度 収支計算書

1999年8月1日～2000年7月31日 (単位:円)

貸借対照表

2000年7月31日現在 (単位:円)

科 目	当 期			前 期
	予算額	決算額	差 額	決算額
収入の部				
基本財産運用収入	90,000	60,662	29,338	92,212
会費・入会金収入	10,500,000	10,025,000	475,000	9,820,000
事業収入	0	0	0	0
雑収入	40,000	168,116	▲ 128,116	40,614
受取利息	40,000	20,581	19,419	40,614
雑収入	0	147,535	▲ 147,535	0
当期収入合計(A)	10,630,000	10,253,778	376,222	9,952,826
前期繰越収支差額	33,893,058	33,893,058	0	35,234,502
収入合計(B)	44,523,058	44,146,836	376,222	45,187,328
支出の部				
事業費	7,000,000	5,960,807	1,039,193	5,399,373
会報制作費	1,700,000	1,704,135	▲ 4,135	1,655,945
特別企画費	700,000	0	700,000	708,328
記念品費	1,800,000	1,729,350	70,650	1,789,200
支部活動費	800,000	864,222	▲ 64,222	0
広報費	250,000	120,750	129,250	249,900
補助金	100,000	639,550	▲ 539,550	100,000
福利費	500,000	598,000	▲ 98,000	496,000
奨学金	400,000	300,000	100,000	400,000
事業雑費	50,000	4,800	45,200	0
名簿改訂準備金	100,000	0	100,000	0
Eコノパワー協賛金	600,000	0	600,000	0
30周年特別事業費	0	0	0	2,362,500
30周年寄付金	0	0	0	0
30周年名簿	0	0	0	2,362,500
会議費	1,500,000	1,855,492	▲ 355,492	1,335,378
総会費	400,000	285,053	114,947	309,449
役員会費	100,000	162,319	▲ 62,319	100,699
役員会旅費	1,000,000	1,408,120	▲ 408,120	925,230
事務費	2,250,000	2,669,189	▲ 419,189	2,183,166
人件費	410,000	410,000	0	410,000
通信印刷費	1,500,000	1,859,753	▲ 359,753	1,446,040
事務用品費	50,000	45,120	4,880	46,256
事務雑費	50,000	121,516	▲ 71,516	48,070
事務機器リース費	240,000	232,800	7,200	232,800
雑支出	50,000	11,648	38,352	13,853
慶弔費	20,000	11,648	8,352	3,853
退職者慰労金	30,000	0	30,000	10,000
固定資産取得支出	0	246,000	▲ 246,000	0
器具備品	0	246,000	▲ 246,000	0
基金財産設定支出	0	0	0	0
運用収入正味財産繰入	0	60,662	▲ 60,662	0
予備費	250,000	0	250,000	244,270
当期支出合計(C)	10,800,000	10,803,798	▲ 3,798	11,294,270
当期収支差額(A)-(C)	▲ 170,000	▲ 550,020	▲ 380,020	▲ 1,341,444
前期正味財産修正		3,859,601	3,859,601	
次期繰越収支差額(B)-(C)	33,723,058	29,317,617	29,317,617	33,893,058

科 目	前 期(A)	当 期(B)	増 減 (A)-(B)
資産の部			
流動資産	29,941,037	29,427,527	▲ 513,510
現金	16,612	148,490	▲ 131,878
普通預金	11,004,244	10,345,290	▲ 658,954
定期預金	18,920,181	18,933,747	13,566
固定資産	44,128,358	44,435,020	306,662
特定目的資産	42,650,647	42,711,309	60,662
学友会館建設定期預金	27,709,948	27,749,752	39,804
奨学金積立定期預金	14,940,699	14,961,557	20,858
有形固定資産	1,477,711	1,723,711	246,000
器具備品	1,477,711	1,723,711	246,000
資産の合計	74,069,395	73,862,547	▲ 206,848
負債および正味財産の部			
負債	19,400	55,910	36,510
流動負債	19,400	55,910	36,510
未払金	19,400	55,910	36,510
正味財産	74,049,995	73,806,637	▲ 243,358
(うち特定目的資産)	42,650,647	42,711,309	60,662
(うち正味財産増加額)	▲ 1,341,444	▲ 243,358	1,098,086
負債および正味財産の合計	74,069,395	73,862,547	▲ 206,848

監査報告書

1999年度の学友会会計に関し、貸借対照表および収支計算書を平成12年9月4日に総勘定元帳及び各種帳票類と照合し監査した結果、適法且つ適切でありました。

監査役 吉田 豊彦



監査役 榊原 和明



2000年度 事業計画

- 総会の開催
 - 本学近辺で開催する。開催場所、日程については役員会にて決定する。
- 会報の発行
 - 例年通り発行する。
- 学友会ホームページ
 - ノートパソコン、プリンタを購入し、より充実させる。
- 支部活動
 - 積極的な取り組みを展開する。また、既存の支部の活性化を図る。
- キャンパス・グッズ
 - 販売方法を検討する。
- 学園・大学との懇談
 - 理事や大学執行部との懇談会を行う。
- 準会員との交流
 - 学生自治会クラブ役員との交流会を10月中旬に予定。
- 退職者記念品
 - 定年退職者へ記念品を贈る。
- 卒業生記念品
 - 学友会規約を配布する。
- 3000円程度の記念品を贈る。
- 積立金(学友会館設立積立、奨学金積立)
 - 継続する。(財政状況により決定する)
- 奨学金
 - 在学生に対し奨学金を支給する。
- OBへの福利厚生
 - 長島温泉割引を行う。
- 適切なものがあれば随時考える。
- 大学への協力体制
 - 学生募集への協力をする。(同窓生子女推薦等)
- 大学主催のエコノパワー大会に学友会として協賛する。
- 寄付金

ソーラーカーによるシルクロード走破計画

ソーラーカーによるシルクロード走破計画は、ソーラーカーのデザインをイタリア国立フェラーリ工業専門学校、そのデザインに基づいた車両の製作を中国自動車短期大学、シルクロードの走行許可申請を始め中国国内での調整を中国汽車工業総会社がそれぞれ担当して進めています。

製作したソーラーカーで、二〇〇一年九月一日敦煌(トンコウ)をスタートして、七日間かけてゴールの烏魯木齊(ウルムチ)まで、延べ千キロメートル以上を走破しようという壮大な計画です。

シルクロードは、砂漠、部分的未舗装道路、海拔三千メートル近い高地、昼間は四十度近くまで上がり夜は十度以下になる気温、そして砂嵐を巻き起こす強風など、大変過酷な条件で、学生たちが製作したソーラーカーの耐久性や効率などのデータを取ることは、大変貴重な実験として注目されています。

編集スタッフより

学友会会報二十号発刊にあたりご協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。

